

課題

『アジアにおける循環型未来都市を求めて』

課題内容:

2005年6月に開催されたIFYA NAGOYA 2005では、世界各国から集まった若手建築家約50名が、①名古屋市都心界隈地区、②名古屋港ウォーターフロント地区、③中部国際空港周辺地区、の課題地を対象に、それぞれの30年後の循環型未来都市を提案し、図面と模型で表現しました。その成果は、美術出版社から、「循環型未来都市—サステナブルシティ」菊竹清訓編集として出版されています。そこで、本年の第3課題では、都市計画の課題のひとつとして、名古屋市内の4つの地区の現在から30年後までを計画することとします。行政と民間と地元の三者がどのように街づくりに関わっていくのかを、建築の設計を含めて、30年後までを計画してください。その際、「循環型未来都市」というキーワードを念頭におくこと。

チーム構成:

3～5人を自分たちで構成して、それを1チームとします。

ディスカッションやプレゼンテーションなどで力を合わせることを。

課題地:

①名古屋市栄～大須の都心地区、②名古屋市伏見～堀川の広小路地区、③名古屋市大須～上前津の下町地区、④名古屋築地～港のウォーターフロント地区のいずれかのうち、右の航空写真の範囲としますが、提案内容に応じていくらか範囲を拡げてもよいとする。



①都心地区



②広小路地区



③下町地区



④ウォーターフロント地区

中間チェック用提出物:

メールの本文と1通あたり1メガ以内の模型写真のみ。

最終提出物:

課題地に関する分析、提案のコンセプトなど、2週間でディスカッション・スタディした結果を、↓の要領で表現する。

中間チェック:

下記の日程で随時行います。メールで受け付けます。

課題日程:

○5月24日(木) 課題の説明

13:00～14:30 課題の出題、質疑応答

○5月24日(木)～5月27日(日) 課題地の決定→課題地の分析→ディスカッションとスタディ

チーム毎に実物模型のみでディスカッションとスタディを進め、必要に応じて出題者へメールすること。24hours。

メールを送る際は、メールの本文と模型写真のみ受けつける。まだCADは使わない。積極的に質問すること。

模型写真についてはTAの高井さんを通して1通あたり1メガ以内であることを確認する。

○5月28日(月)～5月30日(水) 各チームのスタディ内容のクオリティを上げる 実物模型のみでスタディ・表現する
5月28日(月)までに受けたアドバイスをもとに、各チームで、スタディ内容のクオリティを上げることに専念し、必要に応じて出題者へメールすること。24hours。まだCADは使わない。

○5月31日(木)～6月4日(月) 各チームで考えたことを最終模型に盛り込む 実物模型のみでスタディ・表現する
5月31日(木)までに受けたアドバイスをもとに、各チームで、スタディ内容のクオリティを上げることに専念し、必要に応じて出題者へメールすること。24hours。まだCADは使わない。

○6月5日(火)～6月7日(木) 随時、北川研究室にて中間チェックに来室する 実物模型のみでスタディ・表現する

○6月11日(月) 講評会 6月7日(木)までに各チームと打ち合わせた結果をもとに、映像であれば、実写ムービーでも、コンピュータグラフィックでも、図面でも、スケッチでも、写真でも、絵でも、紙芝居でも、絵巻物でも、どんな表現でもいいので、6月11日(月)までにプレゼンテーション用として制作し、10:30～12:00&13:00～14:30にプロジェクタで投影しながらチーム毎に講評します。

備考:

一昨年開催された前述の国際会議の期間中、名古屋市内にて菊竹清訓氏、内藤廣氏、古谷誠章氏、原田鎮郎氏、長谷川逸子氏、張永和氏他、国内外の著名な建築家による、循環型未来都市についての講演会などがありました。「循環型未来都市—サステナブルシティ」に内容が全て掲載されていますので、課題中も課題後も含めて、参考にする。